どうぶつこうえんニュース

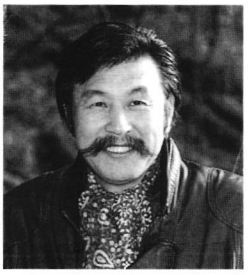
Chiba Zoological Park News

No. 17

千葉市動物公園
Chiba Zoological Park

どうぶつと私…(12)
Animals and I

野生の中で
In the wildness



吉野　信
動物・自然写真家

フルオープンにしたジープの後部座席に座って、超望遠レンズで撮影し続けている私の方に向かって、一頭のトラがゆっくり歩いて来ます。ここはインド、ジャングルの一角でのことです。そしてわずかジープとの距離が5メートルもない所を、トラは通り過ぎて行きました。

その気にさえなれば、一っ跳びで私など強力な前脚で押えつけることも出来た、至近距離での対峙体験でしたが、トラの方は悠然と歩いて、私の方を見て、唇をわずかにまくり上げ、「ヤア!!」といった挨拶をしただけで歩み去って行ったのです。

アラスカでは、連日、ヒグマの親子たちがサケを捕りに来る河の畔で、撮影し続けたこともありました。人間とクマとの距離は約30メートル、時にはクマの方がもっと近くまで近づいて来ることもありました。流れの中からサケを捕らえ、満腹すると草原の上で親子揃ってじゃれ合いがはじまります。その様子は、犬や猫の子同士のじゃれ合いと何ら変りなく、私も一緒になって遊んでやりたいほどののどかさです。

子連れのクマは恐いといわれますが、この時でさえ、クマが我々人間を襲おうとする気配はないどころか、我れ関せずとばかりに自分達の世界に没頭していたのです。

私が、動物写真を写すために、世界中を駆け廻り、特に猛獣といわれる動物が好きだと知った時、大抵の人は、「危険な目に会ったことはありませんか？」と問いかけてきます。そんな時は、このような体験を話すのですが、それでも人は充分、私を信用しない感じですが、もし私がそのような危険な目に会っていたとしたら、命をなくすか半身不随の身体になっているでしょう。

私は、ある程度の距離以上は野生動物には近づかないようにしています。その距離は動物の種類によっても違いますが、出来るだけ距離を保ち、相手がより自然に振るまえるように心掛けています。国立公園や野生生物保護区では（実際、狩猟区ではほとんど撮影は不可能）、人間が自分達に危害を加えないことを知っていることもありますが、食が満ち足りている限り、猛獣といえども人間を襲うことなどあり得ないと、断言していいほどです。距離を保ち、必要以上に相手を警戒させないようにすることが、野生に接する際の思いやりで、そして危険を回避する最上の方法ではないでしょうか。

目　次

表紙　ハイイロヤケイ……1
どうぶつと私⑫「野生の中で」……2
グラビア　プレーリードッグ……3
特集　類人猿の世界……4
写真コンクール……5
飼育レポート　クロツメバガンの繁殖……6
動物公園の動物⑫ 動物公園の植物②……7
動物公園日誌から……8
飼育よもやま話……10
健康管理センターから 平成5年度行事予定表……11

表紙の動物説明

ハイイロヤケイ

鶏の成立に赤色野鶏とともに関与したのではないかとされているハイイロヤケイはインド中南部に分布し、その羽装、特に首の羽の黄色い斑がフライの毛針の材料として珍重されたため乱獲され、野生では少なくなり、他の3種の野鶏と異なり、現地では厳重に保護されております。

撮影・宮川　千尋

動物飼育数

哺乳類	76種	474点
鳥　類	94種	372点
爬虫類	5種	23点
両生類	1種	2点
魚　類	1種	2点
総　計	177種	873点

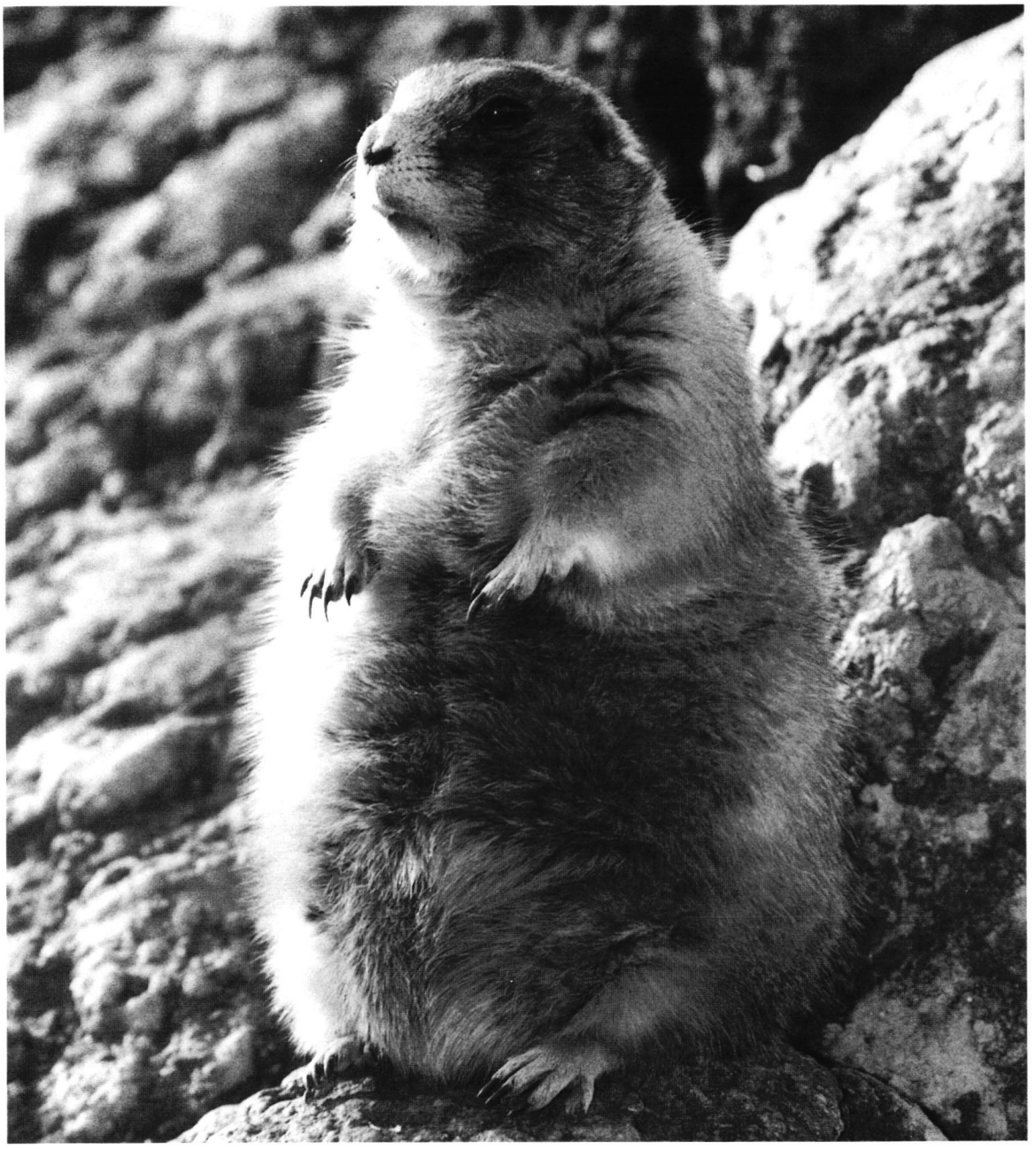
（平成5年1月31日現在）

グラビア

オグロプレーリードッグ

Black-tailed prairie dog

齧歯目　リス科



北アメリカの草原で生活しているオグロプレーリードッグはジリスの仲間で、タウンと呼ばれるコロニーを地中につくり社会生活を営んでいます。牛や馬を放牧する草原にたくさんの穴を開け、草を食べてしまうため牧畜業者に嫌われかなりの数が毒殺されてしまい、今では分布域が狭められてしまいました。秋には冬にそなえて脂肪を蓄え丸々と太ります。名前の由来は警戒音が丁度犬の鳴き声に似ているところからつけられました。

（写真は１月に撮影）　（宗近　功　Isao Munechika）

特　集
Feature

類人猿の世界

The world of great apes

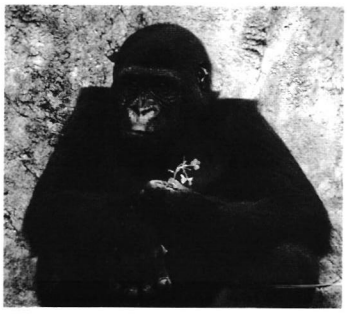
1992年11月4日から動物科学館2階特別展示室において、写真などを使って、野生の類人猿の生態と保護についての特別展を開催しています。そこで各類人猿について簡単に紹介します。

◎類人猿とは

類人猿にはチンパンジー、ゴリラ、オランウータンの大型類人猿、テナガザル（小型類人猿）がいます。特に大型類人猿は知能も高く、複雑な社会生活を営んでいます。すべての類人猿はアフリカと東南アジアの熱帯雨林に主に生息しており、年々生息地はせばめられています。

●ゴリラ

世界のサルの中で最大（大きなオスで280kg）で、アフリカ中部の高地熱帯雨林にすんでいます。体の特徴により、ニシローランドゴリラ、ヒガシローランドゴリラ、マウンテンゴリラの3種の亜種に分けられます。食物は草、つる植物の葉、芽、茎や果実が主で、他にシロアリなどの昆虫も少し食べます。群れで生活し、普通背中が白銀色になった大人のオス（シルバーバックと呼ばれる）1頭と数頭の大人のメスとその子供たちがいっしょにくらしています。夜は草の上や木の上に各自で作った巣で寝ます。どのゴリラも生息地の減少、密猟などにより数が減ってきています。



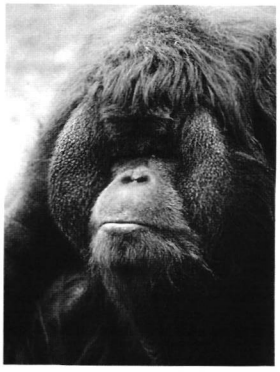
●チンパンジー

アフリカ中部の熱帯林に主に生息し、雑食性で、果実、葉、茎、花、種子（マメ類やアブラヤシ類など）、昆虫（棒を使ってシロアリやアリをとる）やサルなどの哺乳類などを食べます。毎日木の上で枝を折って簡単なベットを作って寝ます。チンパンジーの群れ（単位集団）はたくさんのオス、メスとその子供たちが含まれており、20～100頭くらいですが、全頭がいっしょに行動することはまれで、小さいグループに分かれたり、くっついたりしながら、ひとつの群れとして一定の地域を動きまわっています。数は類人猿の中では多い方ですが、以前にくらべて減っています。

●ビグミーチンパンジー

1929年にチンパンジーと別の種として認められ、アフリカ中央部の限られた地域の熱帯林にしかすんでおらず、数は少なく、15,000頭位と推定されています。食物、ベットや群れ（単位集団）はチンパンジーと似ていますが、性行動は特徴的で、オス－メス間では交尾が、メス同士では抱き合っての性器のこすりつけ、オス同士では馬のり行動や尻と尻のこすりつけが頻繁にみられ、あいさつや緊張緩和に役立っています。

●オランウータン



インドネシアのボルネオ、スマトラ両島の熱帯雨林にだけ生息し、果実のほか、若葉、新芽、樹皮、昆虫や鳥の卵などを食べています。群れをつくらず、母子以外は単独でくらしています。熱帯林の伐採や密猟により減少しています。

●テナガザル類

フクロテナガザル

東南アジアの熱帯林に9種のテナガザルがすんでいます。長い手を使って枝から枝へ身軽に移動します。果実が主食ですが、木の葉、昆虫や小鳥なども食べます。夫婦とその子供の家族でなわばりをもちくらしています。
ベットは作らず、木の上に座って寝ます。

ぜひ特別展をご覧いただき、進化の隣人についての理解を深めていただきたいと思います。

（宝川　範久　Norihisa Takaragawa）

平成４年度写真コンクール入賞作品

POHOT CONTEST

金　賞

いがみあい

天方良明

銀　賞

◀眠いぞ
高野博

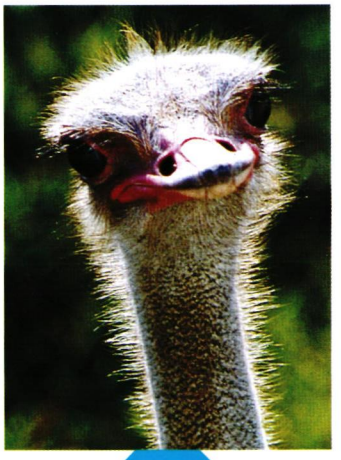
うまいだろう
吉野　巌▶

銅　賞

▲
ミーアキャット
市原次男

▶つかれた
吉江和泉

◀ママー気持ちいいね
堀江美穂



特別賞

こんにちは

行川三生

飼育レポート
Keeper's Report

クロツメバガンの繁殖

Breeding the black spur-winged geese

ツメバガンは頸(くび)と足が長く、翼に尖った爪をもつ独特のガンです。アフリカは、サハラ砂漠より南に分布します。当園で飼育しているのは亜種のクロツメバガンで、体が少し小さいこと、胸部の白色部が少ないことで基亜種ツメバガンとは区別されます。今回、国内では初めてと思われる繁殖に成功しましたので、その経過を報告したいと思います。

クロツメバガンが当園に入ったのは88年で、当初は水禽池に放す予定でした。しかし、この鳥は気性が荒く、他の鳥たちと馴まないため、どこか適当な飼育場はないだろうかということで、池もあり、広さもまずまずのオーストラリア区の放飼場に白羽の矢が立ちました。その年の7月に、雄1雌3の計4羽が晴れてオーストラリア区の一員になったわけです。雌の1羽がすぐに死亡する不幸はありましたが、その後、環境にも慣れ平穏無事のようでした。

私が担当となったのは90年11月からです。91年7月末、緑（雌）が脱走しました。動物病院で保護されていたのを夕方受け取りに行きますと、かごの中で産卵していました。全く予期していなかっただけに慌てました。結局この年は2卵しか産まず、孵卵器に入れましたが中止卵となってしまいました。

92年春、今年こそはと巣箱をこしらえ、緑が日頃よく休んでいる池の奥に、人工の島を作り巣箱を据え付けました。しかし期待に反して全く入らず、6月になって池のそばの陸地に移動してみました。すると2個の卵を産んだのです。しかし目につきやすい場所のため、カラスに食べられてしまいました。さすがにがっかりした私は、以後、卵を見付けしだい人工孵卵する方針に変えました。その後2卵見つけ、これは育雛班の方にお願いしてみました。7/15に奥まった繁みの中で2卵発見しました。この場所ならカラスに気付かれないと思い、単箱を移動し巣材を入れ、卵を戻して様子を見ました。緑は気に入った様子で、巣箱に入るようになり、7/17に新たに卵を産み始めました。その後、ほぼ1日おきに産卵し、7/30に抱卵に入りました。8/12、緑がエサを捕りに出た隙を見て、調べてみますと綿毛がたくさん敷いてあり、卵は12個ありました。待望の

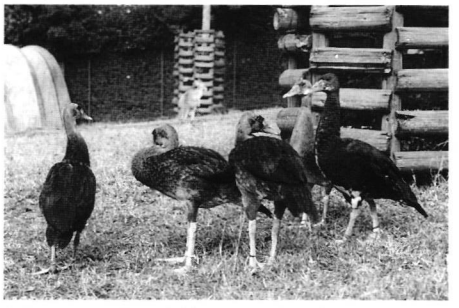
孵化直後

母親と10日令のヒナ

ヒナが孵化したのは9/2で、9/3にかけて5羽のヒナが孵化しました。抱卵日数は34日でした。緑がヒナを巣から連れ出すのを待って、裏の仮設飼育場へ移しました、ヒナは灰色の地に黄色の縞模様が入っており、愛らしいのですが、目つきがやや鋭く、一風、変わっています。孵化時の体重は平均64gでした。その後、一羽が起立不能となり死亡していまいましたが、4羽は順調に成長し、10/1に断翼をしました。

ツメバガンの雄は雌よりもずっと大きくなります。ヒナたちをよく見てみますと、2羽は頭部ががっちりとし、体も少し大型で雄ではないかと思われました。その後も、週一回、体重測定を続けましたが、そのつど班員の方に協力してもらい捕まえるのですが、足の爪が鋭く閉口しました。

ヒナは産毛が除々に抜け、青灰色であった嘴(くちばし)も赤味がさしてきました。体は大きくなるのですが、翼がいっこうに大きくならず、姿勢もやや直立気味で、やはり妙なガンです。孵化後60日もしますと、ほとんど親と同じ大きさになり、11/9に放飼場へと放しました。雄と思われた2羽は約3.5kg、雌と思われる2羽は約2.5kgまで成長していきました。



放飼場にて母親と憩うヒナ（79日令）

その後、私は担当を離れてしまい、成長を記録することはできなくなったのは残念ですが、緑親子には、いい勉強をさせてもらい、心からお礼を言いたいと思います。　（松本　和人　Kazuhito Matsumoto）

動物公園の動物…⑫
Animals in the Chiba Zoological Park
～ショウガラゴ～
Lesser bushbaby

ショウガラゴと言ってわからなくても、ブッシュベイビーと言えば、みなさんもテレビ番組などでよくご存じだと思います。

動物公園ではブッシュベイビーは、動物科学館の1階で太陽の光の入らない動物舎の中で、昼は暗く夜は蛍光灯などの照明で明るくし、人工的に昼と夜を逆転させて展示しています。

完全な夜行性動物で大きな耳をもち、体重200～300gの小さなかわいい原始的なサルの仲間です。

サハラより南のアフリカでサバンナと森林サバンナ区域に分布し低木林、二次林や、藪のある草原等に生息していますが深い森には住んでいません。

樹上、地上とも身軽に跳びはねて移動し、その様子は、小さな体で軽々と地上から2m位の木に跳びあがり、まるで忍者のようです。また地上ではカンガルーのように跳び跳ねています。

野生では、アカシアの樹脂と昆虫、小動物、鳥の卵、果実などを食べていますが、動物公園では、バナナ、リンゴ、ミカン、蒸かしイモ、ニンジン、ミルクパン、昆虫などを与えています。

科学館では、去年生まれた2頭とその両親の計4頭を展示していますが、木から木へと跳びはね、とても動きのある行動や、しぐさに愛嬌のある姿は見る人を楽しませてくれると思います。

今年もかわいい赤ちゃんの姿が見られることを期待しています。　（石井　信一　Shinichi Ishii）

動物公園の植物…②
The plants in the Zoological park.
～シ　イ～
Pasania

動物公園内には、喬木（きょうぼく）（スギやケヤキなどの高い樹木）が約130種・15,800本あり、灌木類（かんぼくるい）（ツツジ類やツゲなどの低い樹木）は約62種・123,000本ほどの樹木が生育しています。喬木には落葉樹と常緑樹があり、園全体では落葉樹が多く植えられています。その内、常緑樹は喬木全体の約20%ほどです。今回は、常緑樹のシイを紹介いたします。

シイはブナ科のシイ属に入り、シイという特定の植物は存在しません。シイの中にはスダジイとツブラジイがあり、関東地方にはスダジイが多く分布しています。

また、ツブラジイは関東南部以西の本州、四国、九州地方に分布し、関東地方では伊豆半島以西に見られます。動物公園内にも、シイはスダジイが植えられています。

学術的にはスダジイは、ツブラジイが母種でその変種にあたります。材質は硬く建築材や器材、船舶、下駄などにも用いられ、昔は薪炭用として広く使われていました。また、シイタケの原木としても、材質が良いことから利用されています。その他、樹皮にはタンニンが多く含まれていることから、魚網の染料や渋をとることに使用され、実は炒って食用にしました。また、その昔シイの果実（ドングリ）は、まだ米が主食となる以前、食糧としていた時代もあります。

樹は団地の公園や庭園に植えられ、社寺林などにも多く植えられています。また、防火や防風樹としても利用されています。動物公園には、既存樹（公園が整備される以前からあった樹）として、国内東側の『鳥類・水系ゾーン』に生育が見られます。この場所は、公園を整備する以前は社寺林跡で、その跡が現在でもうかがえます。

また、園内の台地部分は、畑が多くあったため、常緑の高木が少なく、現在植栽されている常緑樹の殆どは、整備段階で新たに植栽したものです。

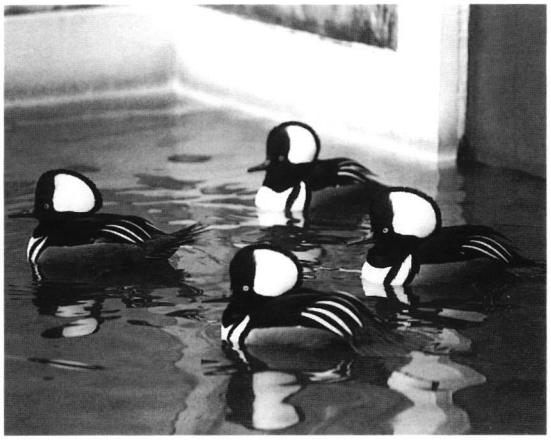
従って、今日の動物公園において、常緑樹は公園利用者や動物たちの緑陰や防風などのほか、野鳥の住みかとして、常緑樹の緑が貴重なものとなっています。

（本多　啓一　Keiichi Honda）

動物公園日誌から
From Zoological Park Diary

'92年8月1日～'93年1月31日

8月1日　ツメバガン、本格的抱卵に入る
8月4日　モウコノウマに腰麻痺予防薬を投与
8月5日　ムギワラトキ、産卵
8月7日　キングペンギン、換羽終了
8月9日　ベニバト1羽、カンムリバト1羽繁殖
8月11日　ゴイサギ1羽、保護預り
8月15日　イワトビペンギン、換羽が始まる
8月17日　オオカンガルーの仔、外で活動する時間が多くなる
8月18日　本日より青草、ソルゴーにかわる
8月19日　ヤマドリ、新着
8月21日　ゾウガメの体重測定を行う
8月22日　オランウータン（ラーマン）、喉嚢炎の手術を行う
8月23日　トナカイ雄の袋角、少しむけてくる
〃　「動物公園ワンポイントウォッチング」開催（タヌキ）
8月25日　千葉市教育研究会の研修会開催
8月26日　群馬サファリパークの杉本氏、来園
8月27日　シロガオマーモセット、繁殖
8月29日　マカロニペンギン、換羽終了
8月30日　イワトビペンギン、換羽終了
8月31日　フクロテナガザルの雌、初めて放飼場に出る
9月1日　動物愛護週間特別展「日本のワシ・タカ」開催（～30日まで）
9月2日　ツメバガン、4羽孵化
9月3日　ダチョウの卵、2個孵卵器に入れる
9月4日　マーモセット、暑さのために全体的にバテぎみである
9月5日　ウマ5頭の削蹄を行う
〃　全24種の動物の搬出を行う
9月6日　ハゲノドスズドリ、1羽死亡
9月8日　ＮＨＫ、夜行獣の取材を行う
9月10日　ヤク、樹木保護柵をこわす
9月12日　ツメバガンのヒナ1羽、起立不能となる
〃　ミケリス、2頭新着
9月13日　「敬老の日記念行事」開催
9月14日　ヤギ、ヒツジの腰麻痺予防注射を行う
〃　ハートマンヤマシマウマ、削蹄のための、鎮静効果実験を行う
9月15日　マレーバク雌、鎮静剤投与後、X線検査を行う
9月16日　八千代市教育研究会の研修会を開催
9月19日　ゲルディモンキー、繁殖
9月19日　レッサーパンダにフィラリア予防薬を投与する
9月21日　サル比較舎、金網修理工事始まる
〃　キジ類にニューカッスル病の予防注射を行う
9月23日　オランウータン（ラーマン）喉嚢炎の手術2回目を実施する
〃　動物愛護週間特別映画会
9月24日　ダチョウ、2羽孵化
9月27日　「動物公園ワンポイントウォッチング」開催（アシカ）
10月1日　カピバラ2頭、アメリカビーバー2頭、新着する
〃　特別展「類人猿の世界」開催
10月3日　キリン雄、木柵をこわし隣の放飼場に入る
10月6日　バードホールの暖房を始める
10月9日　ツメバガンの雛の体重測定と足環付けを行う
〃　ピグミーマーモセット、繁殖
10月12日　マレーバク、木柵越しに見合いを行う
10月13日　キリン全頭、検便する
10月16日　都賀小学校の生活科野外授業を行う
〃　ツメバガン雛の体重測定を行う
10月17日　ヨーロッパバイソン、樹木保護柵をこわす
10月18日　「動物公園ワンポイントウォッチング」開催（ヤク）
10月19日　モウコノウマの破傷風予防接種を行う
〃　今年うまれのニホンザルの仔に入墨を行う
10月20日　アクシスジカ雄の左角落ちる



10月21日　オウギアイサ、ディスプレイを行う
10月22日　カピバラ3頭、アメリカビーバー2頭、搬出する
〃　ネズミガン、ヒドリガモ、トモエガモ新着する
10月24日　ムフロン、発情が目立ってくる
10月25日　「自然と遊ぶ教室」開催
10月26日　定期点検のため全園停電となる
10月27日　アカカンガルー、雌1頭新着

開催風景（ササでフクロウを作りました。）

10月29日　シロガオマーモセット、繁殖
10月30日　アネハヅル１羽、クロヅルにつつかれ死亡する
11月３日　アシカ全頭にフィラリア予防薬を投与する
〃　「秋のクイズラリー」開催
11月４日　特別展打ち合わせ会議を行う
11月５日　アカカンガルーのＸ線検査を行う
11月６日　今年うまれのオウギアイサの雛に足環をつける
11月７日　ニホンザルにツベルクリン接種を行う
11月８日　写真コンクール表彰式
11月９日　ツメバガンの雛、本放飼場にだす
11月11日　第２回ゾウ会議開催
11月12日　ゾウ会議終了
11月16日　ハートマンヤマシマウマの雄、麻酔下で削蹄する
11月17日　子供動物園コンタクトエリアの仮設小屋工事始まる
11月19日　ゴリラ、交尾様行動がみられる
11月20日　ニホンザル、発情期に入り闘争が多い
11月22日　「動物公園ワンポイントウォッチング」開催（マレーバク）

11月25日　ホオカザリヅル、産卵するが破卵していた

11月27日　オランウータン（ラーマン）、死亡
11月29日　ダチョウの雛、１羽死亡
12月３日　ニホンザル雄（もとボス）闘争により裂傷を負い隔離する
12月５日　ニホンザル（もとNo.３）、闘争により裂傷を負い隔離する

12月６日　「クリスマスのつどい」開催

12月７日　ヒオドシジュケイ雄１羽、雌１羽、釧路市動物園へ寄贈する
〃　ゾウ舎改修工事のため、本日より屋内展示のみとする
12月11日　カピバラ、流産
12月15日　ハートマンヤマシマウマ、出産するが仔は元気がなく、夕方死亡する
12月18日　日本馬事協会よりモウコノウマについて取材あり
〃　ホオカザリヅル雄１羽、上野動物園から新着する
12月20日　「動物公園ワンポイントウォッチング」開催（コンゴウインコ）
12月23日　アミメキリンの仔（アケボノ）、急死
12月24日　ムギワラトキ、１羽孵化
12月28日　飼育研究会を行う
12月29日　本日より１月４日まで閉園となる
１月４日　シシオザル、雌１頭死亡
１月６日　クロミミマーモセット、雌１頭入院
１月７日　ゾウ舎工事再開さる
１月８日　オランウータン舎に採餌装置をつける
１月10日　「新春のつどい」開催
１月12日　家禽舎工事のため、管理道路、一部通行禁止となる
１月15日　冬には珍らしく雨がつづき、放飼場がぬかるむ
１月17日　「動物公園バードウォッチング」開催
１月18日　セイロンヤケイ、雄１羽死亡
１月23日　午後、雪のため動物を早目に収容する
１月24日　マンドリル雄の犬歯、真二つに割れる
〃　「動物公園ワンポイントウォッチング」開催（バードホールの鳥）
１月25日　アメリカビーバーの伸びすぎた歯を切る
１月28日　長雨つづきでキリン放飼できず

飼育よもやま話
Animal Episode

毎日がノド自慢
Daily singing contest

“ウーウァウァウァ・ウーウァウァウァ”静寂を打ち破るかのようにその共鳴袋を膨らませ、雄、雌・デュエットの鳴き声が園内にこだまし、一日の始まりを告げようとしています。

フクロテナガザル・別名シャーマン。多くの動物がいて、さまざまな鳴き声のする動物公園の中でも屈指の大声自慢です。そのソプラノの美声（媚声？）は4キロ四方に届くともいわれます。アジアのマレー半島、スマトラ島に生息しており、7種に分類されているテナガザルの中では最も大きく、その体重も10kgを越えます。食べ物は果実はもちろんですが、より葉食性の傾向が強いようです。

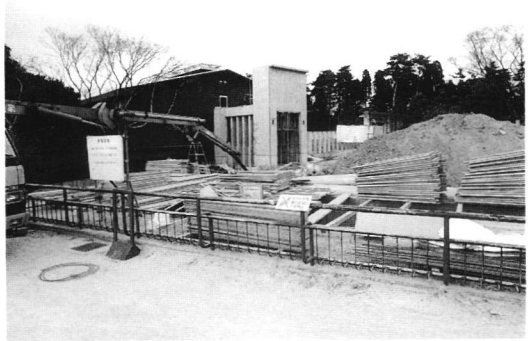
朝、寝室から放飼場に出して、しばらくの後その大声が聞かれます。が、毎日決まって聞かれるとは限りません。まず天候がよく、暖かな日であること。そしてギャラリー（お客さん）が比較的多くいること。最後に、飼育の担当者が近くで話しかけてやること、の以上3点の状況が重なると、よくその声を聞くことができるようです。

本来、鳴く（声を出す）ということは、雄と雌の結びつきをより強くする働きをする、と同時に隣接する仲間を牽制（けんせい）する“なわばり”の宣言であると、受け止められています。

このような働きからすると、さきほどの3つの点の状況での行為には首を傾げる点もあります。きっと私たちには知られていない、もっと広範囲で重要な意味があるのだろうか…と思いを馳せたりします。と、それをあざけ笑うかのように、その共鳴袋を風船のごとく、大きく膨らませ始めます。そして元気よく“ウーウァウァ・ウーウァウァウァ”とデュエット・ソングの始まりです。　（牧野　辰男　Tatsuo Makino）

ゾウ舎の改造工事
Remodeling of the elephant house

ゾウ舎は平成3年12月より約4カ月間の増築工事に入りました。この工事はゾウが大人になって攻撃性を持つ前に人間とゾウが直接接しなくても飼育管理できるようにゾウ舎を改造するものです。



工事箇所は放飼場、室内両方のため放飼場が工事の間約2カ月間はゾウは室内から出せなくなってしまいました。まだ子供とはいえ大きなゾウが毎日7m四方の室内にいるのはかなりストレスがたまり、また不潔になると思い、工事が始まる前に飼育担当者、施設係が協議し、工事は騒音の出る期間を短くし飼育管理はできる限り清潔にするようにしました。幸い寝室は3部屋あるので清掃はできそうです。そこで雄と雌を両端の部屋に入れ清掃中は一頭ずつ中央の部屋に移し飼育管理することにしました。この方法なら清掃もしやすく、部屋を清潔に保てると考えたのです。本当はゾウは仲間と一緒の方が落ち着くので日中は二頭一緒の部屋にしたかったのですが、ゾウが騒音などでパニックになり二頭で暴れると部屋が狭いため危険なのでゾウには我慢してもらうことにしました。

しかし工事の音は予想以上にゾウを不安にさせたようで、雄ゾウが清掃の後自分の部屋に戻らなくなってしまい、一時工事を中断してもらうなどの事態がおこりました。その後、雄ゾウは部屋を移動しましたが、やはり工事の音がするときは雌のそばにいた方が落ち着くと考え日中は雄を雌のとなりの部屋にいれ、夜間だけ部屋を離すことにしました。

この結果、ゾウは比較的落ち着いて生活しています。そのほか毎朝ホースで水をかけて体を洗ったりしていますが、やはりゾウは表へ出て自分で砂浴びをしたいようです（寒いので水ではないのです）。

（浅野　洋之　Hiroyuki Asano）

健康管理センターから
From the Animal Health Center

ウスユキバトの夫婦げんか

Marital discord of diamond doves

ウスユキバトはスズメのしっぽを少し長くしたくらいの大きさのかわいいハトです。ほかのハトと同じように夫婦はとてもなかむつまじく、子供動物園の夫婦もいつもいっしょにいて、今までに何回も卵を産んだヒナをかえし、育ててきました。

ところが先日、「一羽がハゲてしまいました」と言われて見たところ、雌の頭の後ろから背中にかけて羽がぬけています。傷はなく、皮膚病などでもないようです。雄につつかれていたということでした。いったいどうしたのでしょう。あんなに仲が良かったのに、インコやオウムは仲の良い夫婦だと雄が雌の羽づくろいをする時に羽をぬいてしまって雄がハゲてしまうことはよくあります。けれどもほかの鳥ではそういうことはあまりありません。とりあえず雌を別のカゴにうつして、雄の入っているカゴのとなりにおきました。

一週間ほどして、雄がポーポー、ポーポーと、雌を呼ぶ声でしきりに鳴いているので、雌をもどしてみました。雄はさっそく雌のそばへよっていってポーポーと鳴きながら尾羽を挙げて広げて見せるディスプレイをします。ところが雌は見向きもせずに逃げてしまいます。雄は何度か追い回してディスプレイをした後、今度は雌をつつき始めました。雌のようすが何か変なので調べてみたら、右のつばさの羽がなくなっていて、左右のバランスがとれず、飛べない状態でした。

ウスユキバトの突然の夫婦げんかのわけは、雌が何かのきっかけで右のつばさの羽がぬけて飛べなくなり、雄のディスプレイに答えることができず、雄はそれで雌をよそものとして（？）攻撃したということだったようです。

鳥の羽は根元からぬけた時はしばらくすればまたはえてきます。数週間たった今、雌のハゲていた所はすっかりきれいに元通りになり、つばさの羽も順調に伸びてきています。もうすぐ飛べるようになるでしょう。このどうぶつこうえんニュースが出るころには、また仲良くヒナを育てている姿が見られるだろうと思います。　（米田　久美子　Kumiko Yoneda）

平成５年度行事予定表

アニマルスクール	7月10日・10月9日・3月12日	自然と遊ぶ教室	10月17日
愛鳥週間記念行事	5月9日	秋のＺＯＯクイズラリー	11月3日
羊の毛刈りと紡毛教室	5月16日	クリスマスのつどい	12月12日
動物を計る会	6月6日	新春特別展示	1月4～30日
サマースクール	7月27～29日	バードウォッチング	1月16日・2月12日
動物愛護標語募集	7月1～31日	ゆかいな森の音楽会	2月13日
写真コンクール	応募は10月10日まで	春のＺＯＯクイズラリー	3月27日
動物愛護週間特別展示	9月1～30日	動物映画会	日・祭日・春、夏休み中
敬老の日記念行事	9月12日	ワンポイントウォッチング	毎月第4日曜日
動物愛護週間特別講演会	9月19日	ＺＯＯシネマ	毎月第2土曜日（4・6・7・10・2・3月を除く）

くわしくは市政だより（全市版）でおしらせします。

オランウータン

どうぶつこうえんニュース 第17号
平成5年3月1日発行

編集・発行　千葉市動物公園・(財)千葉市動物公園協会
☎043-252-1111　☎043-252-1221
〒264 千葉市若葉区源町280番地　280 Minamoto-cho Wakaba-ku Chiba-city Japan.